

これからを創る企業です



モリノマシナリー 株式会社



企業概要

代表取締役

上村 龍市氏 (右)
(兼 有限会社さつき商会 代表取締役)

会長

森野 豪一氏 (左)



所在地 三重県津市雲出長常町字五ノ割1155番地1
TEL:059-235-0251(代) FAX:059-235-0253

設立 1971年(昭和46年)5月

資本金 1,000万円

従業員数 16人(2020年11月現在)

事業内容 一般産業用機械の設計、製作並びに据付・調整、省力・省人機械の設計製作、治工具の設計製作、機械装置の改造・移設・据付工事全般、機械装置の解体撤去工事、空調設備工事、機器メンテナンス等の現地工事

U R L <https://satsuki-gp.jp/>

家族経営で機械修理

「MS*3 Group」のマザー工場として、
技術力を武器に顧客の要望に応え続けていく。

モリノマシナリー株式会社は、津市に社屋を構える一般産業用機械の設計、製作等を主な事業とする会社である。1971年に現会長である森野豪一氏の父・誠一氏が森野鉄工所を創業。豪一氏は、父や弟らとともに会社を支え、成長させてきた。

創業当時は機械修理がメインであった。家族経営の小さい会社ながら、樹脂や電機、菓子等の大手メーカーの工場の機械修理を多く請け負ってきた。森野会長



工場外観

は「父が会社員時代に培った人脈によるものが大きかったが、どんな注文にも臆せず挑戦し経験を積むことができた」と振り返る。当時の森野鉄工所の従業員は5名。自社で賄いきれない仕事は外部発注をして仕事を完了した。

大きな仕事が自身を成長させる

「そういえば昔、こんなことがあった」と森野会長が笑う。20代の頃、近くの港の栈橋に外国籍の大型船が衝突し、20mの栈橋が曲がってしまった。「修理してくれ」と同社に依頼がきたが、栈橋の修理をしたこともなければクレーン機などの重機も持っていない。「この話は断ろう」社内からはそんな声も出た。しかし、若く血気盛んな森野会長は人脈をたどって作業員を集め、クレーン機をチャーターし見事、栈橋の修理をやり遂げた。

後日、船会社より船舶保険に

工場内の様子



立型マシニングセンター



よる修理代金支払いのための書類が届いた。英国の保険会社からで、すべて英語で書かれている。「中身を確かめないままサインはできない」と思った森野会長は、駐在先の米国からたまたま帰国していた幼馴染に書類を翻訳してもらい、すべて目を通してからサインをしたという。森野会長は「当時は大変苦労したが、大きな仕事を通して仕事の仕方を覚え、自分自身が大きく成長した」と話す。

大手メーカーの信頼に応える技術力

94年に父・誠一氏が他界。森野

MS*3Groupに込められた意味

「MS*3Group」にはさまざまな意味が込められている。Mはモリノマシナリー、Sはさつき商会、サン電機工業、三東製作所、さつき警備保障、さつきポートサービスの頭文字だ。その6社の力が3倍となる願いを込め「*3」とした。そして、各社には特色を表す「MS」があてはめられている。さつき商会は「Main Symbol(基幹をなす象徴)」。モリノマシナリーは「Machinery Support(機械のからくり、支える)」であり、機

会長は社長に就任し、「モリノマシナリー株式会社」へ称号変更。高い技術力と堅実な経営により、会社の基盤をさらに固めていった。

森野会長は家業に入る以前、自動車検査員として働いておりメカニックについて熟知していた。その経験は工場設備の修理や整備に大いに発揮された。「プラントの調子が悪いからみてくれ」と大手電機メーカーからヘルプが入り現場に向かう。プラントから発生する異音を聞けば、どの箇所の問題が生じているかがだいたい頭に浮かんだという。

「他の業者に比べて当社の出す金額が安いから発注が来ただけ」と森野会長は謙遜するが、その腕を信頼されている仕事であることは明らかである。

「人が仕事を持ってきてくれるので、自分で営業はしたことがない」と森野会長。何にでも果敢に挑戦し、受けた仕事には真摯に向き合う。そんな同社を頼ってくる企業は多い。

07年、同社は有会社さつき商会とM&Aを行い、MS*

3Group(エムエススリーグループ)の一員となった。モリノマシナリーの経営は極めて順調だったが、後継者等の課題もあり会社と従業員の見据えた末の選択だった。社名と従業員は変わらず引き継がれた。森野氏は会長に就任し、現在も会社を支えている。

異業種とのM&A

M&Aの相手方であるさつき商会は49年に船の曳船を業として発祥、78年に商号を「有会社さつき商会」として設立した。その後、海運仲立業、港湾運送関連事業を免許取得し、輸送機械部品梱包業や輸入青果物、パック業務など港湾関係の事業を手掛けてきた。また、港湾の荷役請負をきっかけに工場ライン請負も行うようになり、一般労働者派遣業の許可取得後は、92年に株式会社さつき警備保障、05年に株式会社さつきポートサービスを設立。現在、名古屋で港湾関連、海運仲立業、重量貨物運搬据付作業、一般労働者派遣事業等を主要に行っている。

む、不良品を造らない、社外に出さない」ことを徹底している。工場の設備投資にも積極的だ。総面積1,200平方メートル超の工場には天井走行クレーンや新型の立型マシニングセンターなど各種設備が揃う。

森野会長はこれまで、自らの現場に社員を付き添わせ、仕事の仕方や技術を学ばせてきた。しかし今は、現場のセキュリティや安全管理の理由等で外部者の入場が制限されることも多い。設計では3Dの設計図面が要求されるなど必要な技術も変化しており、必要な技術をもった人材の採用や新たな教育体制の構築も必要となっている。

前進するMS*3Group

さつき商会は19年に創業70年を迎え、モリノマシナリーは21年で創業50年。今は節目ともいえる時代。上村社長は「社会や人、ルール等が変化している。アンテナを高くし、我々も変わる必要がある。しかし、愚直に業務に取り組む姿勢は変わらない」と語る。森

さつき商会は自社を基幹としたホールディングスを展開している。04年にサン電機工業株式会社(岡崎市)、07年にモリノマシナリー株式会社、19年に株式会社三東製作所(豊明市)がM&Aにより同ホールディングスの一員となった。

森野会長はM&Aを行った当時を振り返り、「同業でない会社とのM&Aに不安はあった」という。しかし、工場を訪れたさつき商会の上村龍市社長が一生懸命に話を聞き見学する姿を見て、不安は払しょくされた。「上村社長がものづくりに対してとても興味を持っていてくれることがわかり、これなら大丈夫と決意を固めた」と話す。

さつき商会の上村社長は、「モリノマシナリーは技術力が高く経営的にも申し分ない会社で、森野会長は経営者としても技術者としても素晴らしい方。ぜひ一緒にやっていきたいと思った」と語る。両社のM&Aは百五銀行が仲介を務めた。異業種同士のM&Aは珍しく、M&Aの先進事例として話題となった。

野会長は「MS*3Groupのマザー工場であることをうれしく思う。当社の能力を存分に使ってほしい」と語る。

MS*3Group各社がグループの強みを活かし、さらに大きく成長していくことだろう。

文〓会員事業部 鈴木理可

支店より一言

モリノマシナリー様とさつき商会様とのM&Aは、実は私が銀行本部に在籍していた際にお手伝いをさせていただきました。ご両社のお取引がある港支店長に着任したことは、何か深いご縁を感じます。今回13年振りに森野会長にお会いし、「上村社長に会社を引き継いでもらえて本当に良かった」とおっしゃっていただき、銀行員冥利に尽きる思いです。地方銀行の使命として、このような地域社会への貢献が今後益々必要だと感じます。



百五銀行 港支店長 東條 信介